

事例から
地域との積極的な
かかわりをめざして

かかりつけ患者さんの サークルを立ち上げる

かわむらこどもクリニック・院長 川村 和久

当院は「お母さんの不安・心配の解消」を理念に掲げ、1993年に小児科単科で開業し、さまざまな取り組みを行っています。今回は、活動の一つである「お母さんクラブ」について紹介します。患者さんとの良好な関係のためには、コミュニケーションの確立が重要ですが、活動のなかでもコミュニケーションのたいせつさを感じています。

開催までの経緯

当クリニックでは理念を実践するために、1993年から院内報「かわむらこどもクリニックNEWS」（月刊、現在142号）を発行、1996年からは「かわむらこどもクリニックHOMEPAGE」（アクセス数現在まで約64万件）の開設とメールによる医療相談（患者さんに限定せずホームページで全国から、相談数計4,500件）などに取り組んできました。とくにメール相談からは、不安や心配を解消できずに帰宅する患者さんの姿が浮き彫りになりました。また、医療相談者へのアンケートでは、相談者の半数は「説明を受けたが不安や心配がとれなかった」と回答し、理由は「混んでいた」、「聞く勇気がなかった」などででした。相談内容から、患者さん（お母さん）の不安・心配の強さ、孤立、医師と患者さんの意識の違いを学び、医療機

関側からの歩み寄りの重要性を感じました。また、かかりつけの患者さんにも、医師に伝えきれない、医療相談者と同様の意識をもっている可能性に気づかされました。そこで患者さんへのサービスと、より温かいコミュニケーションの確立を目的として、1998年からかかりつけ患者さんの会員制育児サークル「お母さんクラブ」を開催するに至りました。

お母さんクラブ活動の実際

クリニックと患者さん（お母さん）のコミュニケーションおよびお母さん同士のコミュニケーションを確立するために、年に8～9回の集まりを開催しています（①）。

小児科が主催するので、子どもの病気の話題が中心で「子どもによくみられる症状・病気と対処法」などが定番で、講師は院長が担当しています。保護者に役立つ子育ての話題には、消防士によるダミー人形を使っての体験「あなたは大丈夫？ 救急蘇生」（②）や、栄養士が担当する「栄養の話題」などがあり、会員とともに手作りで行う「クリスマス会」とともに、毎年定番のテーマになっています。消防士は患児のお父さん、また栄養士は乳業メーカーの協力をいただいています。その他日本自動車連盟の協力による「ちゃんと付けていますか？ チャイルドシート」など、昨年度のテーマと担当を③に示しました。

毎回フリーディスカッションの時間を設け、診療のときに聞けない疑問や不安・心配なことへの対応をしています。また、院内報とは別に、お母さんクラブの会報を年4回程度発行し、開催予定だけでなく、参加者の感想を掲載しています。会員募集と開催案内は、院内掲示、院内報、会報で行っています。

開催のメリット・デメリット

参加者の感想と年度末に行うアンケートから、患者さん

Point

- ・かかりつけ医にもなかなか伝えきれない不安や心配を解消する
- ・医療機関から歩み寄るたいせつさを実践する
- ・診療から離れた活動のなかでのコミュニケーションも重要

②活動のひとつ（救急蘇生に取り組むお母さん）



たちにとっては医学的知識や子育てに役立つ知識の習得に役立っているとの結果が出ています。

スタッフも全員参加することにより、患者さんとクリニックとのコミュニケーションが生まれます。「お母さんクラブに参加してから、いろいろなことを聞きやすくなった」という感想もいただきました。サークルを通して、不安や心配が解消されることも、理念の実現に役立っています。

サークルを通して参加者間に友人関係が生まれ、孤立して子育てにもっていた不安が解消された方もいました。

スタッフにもよい影響が出ています。クリニックの活動に参加し、クリニックの理念を肌で感じることはとてもたいせつなことです。クリスマス会などでは、スタッフ自ら夜なべをして子どもたちへのプレゼント作りをしています。

デメリットとしては休診日に開催することで、院長およびスタッフの時間的な拘束が問題になります。逆に患者さん側では、木曜日の午後開催ということで仕事をもっている親御さんが参加できないという問題点もあります。

もう一つは、経済的な側面です。時間的拘束や時間外手当の支給などを考えると、お母さんクラブの開催が、クリニックの経営（集患や増患）に、どのような効果をもたらしているかの判断は困難です。また、低予算のなかでテーマを広げることも今後の課題でしょう。

とはいえ、参加したお母さんからは「子どもそっこのけでクリスマス会に夢中になりました」というような感想も寄せ

③2004年度の会の開催日とテーマ

回	月日	テーマ	講師
1	5月20日	子どもによくみられる症状・病気と対処法	院長
2	6月24日	健やかな心を作る食生活	栄養士
3	7月22日	子どもの病気 うそ？ ほんと？ 6	院長
4	9月18日	あなたは大丈夫？ 救急蘇生	消防署員
5	10月21日	ちゃんと付けていますか？ チャイルドシート	JAF
6	11月18日	インフルエンザ ちょっと怖い病気!? 5	院長
7	12月16日	クリスマス会	院長・スタッフ
8	2月24日	こんな時どうするの？-スタッフ編-	スタッフ
9	3月17日	お別れ会	スタッフ

られ、うれしい限りです。

地域に根ざした活動として

地域に根ざした医療を展開するうえで重要なことはコミュニケーションです。コミュニケーションを確立するためには、診療での対応が重要であることは疑う余地がありません。しかし、限られた時間内で十分なコミュニケーションをとり、患者さんの不安・心配の解消をすることは容易なことではありません。そのためには、診療から離れた活動も重要な要素の一つです。このような活動を通して、患者さんとのコミュニケーション、つまりは地域に根ざした医療が確立されつつあります。少子化や小児科医療機関の増加にもかかわらず、新患登録数がわずかながら増加しているのはこれらの取り組みのおかげでしょうか。これからも、開業理念の実践のための活動を続けていきたいと思っています。

（写真掲載にあたっては患者さんにご了承いただいております。編集部）

profile

医療法人社団 かわむらこどもクリニック
981-0907 仙台市青葉区高松1-16-1
診療科：小児科
開業年：1993年
URL：www.kodomo-clinic.or.jp/
E-mail：kawamura@kodomo-clinic.or.jp